平成２３年度　Ai学術シンポジウム　～Aiの現状と未来～
参加者募集のご案内

主催※：日本医師会、Ａｉ学会、
日本医学放射線学会、日本放射線技師会、
放射線医学総合研究所、日本警察医会

平成23年度 Ａｉ学術シンポジウムを以下の要領で開催いたします。
つきましては、本シンポジウムの参加者を募集いたしますので、希望される方は、下記「申込方法」をご確認のうえ、日本医師会　医事法・医療安全課までお申し込み下さい。

参加対象

どなたでも参加できます。
但し、主催６団体※および都道府県・郡市区医師会の会員、職員の方を先行して受け付け、これらのいずれにも加入されていない方(含、一般の方)の申し込みは、９/１(木)～とさせていただきます。ご了承ください。

開催日時・定員等

開催期日	平成２３年９月２３日（金・祝）
開催時間	１３時～１６時３０分
受付時間	１２時より開始
開催場所	日本医師会館　１Ｆ大講堂 東京都文京区本駒込２－２８－１６ 地図等は下記サイト↓を参照 http://www. med. or. jp/jma/syozaiti. html *JR 山手線「駒込駅」南口より徒歩約10分 *東京メトロ南北線「駒込駅」出口２より徒歩約10分 *都営地下鉄三田線「千石駅」Ａ３出口より徒歩約8分 **※駐車できませんので、お車での来館はご遠慮下さい。**
定員	４００名（先着順・定員に達し次第締切）
参加費	無料　　※宿泊費、交通費は各自のご負担となります。
生涯教育単位数	本シンポジウムは、日本医師会生涯教育制度の取得単位3. 5単位に該当します。(カリキュラムコード：１、5、6、7、8、9、10)
申込締切	**９月１３日（火）**

次　第

13:00～13:05	日本医師会長挨拶
13:05～13:10	厚生労働大臣政務官挨拶（予定）
第１部 13:10～13:55	**問題提起** 演者：海堂　尊　（放射線医学総合研究所） 遠藤　啓吾（日本医学放射線学会） 北村　善明（日本放射線技師会） 川口　英敏（日本警察医会）
第２部 13:55～15:35	**Ａｉ実施施設からの報告**　（１施設10分程度） 札幌医科大学　兵頭　秀樹 東北大学　齋藤　春夫 群馬大学　平澤　聡 福井大学　法木　左近 佐賀大学　阿部　一之 千葉大学　下総　良太 大阪大学　飯野　守男 神戸大学　藤井　正彦 筑波ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ病院　塩谷　清司 Ａｉ情報センター　山本　正二
15:35～15:50	休憩
第３部 15:50～16:25	**総合討論　～Ａｉの現状と未来～** 座長：日本医師会常任理事　今村　聡
16:25～16:30	総括　日本医師会常任理事　高杉　敬久
16:30	閉会

※　内容は、当日までに変更になることもございます。

申 込 方 法

参加希望者は、下記の要領で必要事項を記入のうえ、日本医師会 医事法・医療安全課宛に、FAX もしくは E-mail にてお申込みください。

◆ **FAX でお申込みの方・・・**

次頁の申込用紙にご記入のうえ、**FAX ０３－３９４６－６２９５**へ送って下さい。

◆ **E-mail でお申込みの方・・・**

以下の項目を記入して、ai-923@po.med.or.jp宛てに送信して下さい。

【メールタイトル】
シンポジウム申込

【本文】
日本医師会　Ａｉ学術シンポジウムに参加希望
・氏名：
・氏名フリガナ：
・所属団体：１．都道府県医師会（県名　　）、２．Ａｉ学会、３．日本医学放射線学会、
（複数可）　４．日本放射線技師会、５．放射線医学総合研究所、６．日本警察医会、
７．その他（　　）
※日本医師会への所属（会員 or 非会員）
・職種：１．医師、２．診療放射線技師、３．看護職員、４．医師会職員、
５．病院・診療所事務員、６．法曹関係者、７．学生、８．その他（　　）
・参加票送信先：１．勤務先 FAX、２．自宅 FAX、３．E-mail
・電話番号（必須）：
・FAX 番号(FAX 送信希望者)：**-****-****（自宅 or 勤務先）
※職場への FAX を希望される方は、所属機関名、部署名も必ずご記入下さい。
・E-mail アドレス（E-mail 送信希望者）：

お申込みいただいた方には、数日中に、「参加票」を FAX もしくは E-mail でお送りいたします。**「参加票」は当日必ずお持ち下さい。**

注）一般参加者（主催６団体および都道府県・郡市区医師会(会員･職員)のいずれにもご所属されていない方）への「参加票」送信は9/1(木)以降になりますので、ご了承下さい。

申込先　①**FAX**：０３－３９４６－６２９５
②**E-mail**：ai-923@po.med.or.jp

締切り

平成２３年９月１３日（火）

（申し込みは先着順とさせていただきます。期日前に定員に達した場合には、その時点で締め切らせていただきます。）

【問い合せ先】 日本医師会　医事法･医療安全課　Tel. 03(3942)6484

日本医師会　医療事故調査に関する検討委員会答申
「医療事故調査制度の創設に向けた基本的提言について」(平成23年6月)

Ⅱ 提言本文

2. 全ての医療機関に院内医療事故調査委員会を設置する
(中略)
・ 2次段階advanced stageとしての有事の医療事故調査委員会は、医療事故が起こった時に迅速に発動させる委員会で、院内の委員と外部委員(専門委員、法律家、有識者)で構成される。この段階の医療事故調査委員会においては、死亡を含む問題の事態が生じた際の真の病態とその原因を究明し、再発を防止する趣旨から、死亡時画像診断(Ai)・病理解剖などによる分析を踏まえた調査を行い、院長に報告する。　(報告書4頁)

3. 医療界、医学界が一体的に組織・運営する「第三者機関」による医療事故調査を行う
(中略)
・ 解剖・死亡時画像診断(Ai)を含む調査・分析機能、人材、財源が現状では絶対的に不足しており、医療界挙げての協力的参画と、国からの制度的・財政的支援が不可欠である。　(報告書5頁)

厚生労働省
死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会報告書
(平成23年7月)

4. 実施体制等の整備について
(5) 専門家の育成等
死亡時画像診断には、日常診療で生体に対して行われる画像の撮影・読影に関する知識に加えて、死後変化や死亡時画像診断に関する基礎知識等及び死後画像の撮影・読影を行う技術の習得が必要である。また、小児放射線科医は、日常診療でも不足しており、死後画像の読影を行うことのできる医師の養成は急務である。
死後画像の撮影・読影に関する知識や技術の向上のためには、関係学会や日本医師会の協力によるガイドライン等の作成や研修会や研究会等の開催が必要である。　(後略)　(報告書7頁)

6. おわりに
(中略)
さらに、死後画像の撮影・読影技術の向上のためには、死後画像の読影結果と解剖結果を比較検証することが重要であると考えられることから、解剖との比較検証は継続的に行うべきである。加えて、死後画像の撮影・読影に関わる研究会や学会の必要性について、医学・医療界で検討がなされるべきである。
(後略)　(報告書9～10頁)